

保育研究の現状と問題点



日本保育学会第14回
大会シンポジウムより

今日の問題は「保育研究の現状と問題点」というテーマでございます。このテーマは、お茶の水の先生方を選んでいただき、全体の構想をたててもらいましたが、このテーマについて私共は何度も話し合いをしてきました。

今日、それぞれを代表される先生方から、状況、進展の具合、さらに今後の見通しなどをうかがいながら、さらに今後のためにどうあらねばならないかということに進展してゆけば幸いです。

壇上に入った先生方は、皆さんよく御存じのかたがたですから、紹介の必要はないと思いますが、今日のシンポジウムに出席された理由を申します。

宮内先生は千葉大付属幼稚園々長でありますと共に、国立の幼稚園関係の研究に活発に活動されています。

安藤先生は東京都の幼稚園関係の指導主事をしていらっしゃると思います。都における幼稚園教育の全体的見とどうして話していただきたいと思えます。

友松先生は私立幼稚園の研究の代表者として選ばれたものであり、私立幼稚園関係の面で御自身でも立派な研究をされています。そして私立幼稚園研究のリーダーとしてもたいへん活躍されています。

秋田先生は都立白金保育園々長。保育の面で実際の研究をしています。また都における公立の保育所の研究を話してもらおうつもりです。

宮下先生は日本鋼管保育所長、私立保育所関係の研究で紙上御存知のようにいろいろ活躍しておられます。

神沢先生は四日市の教育研究所の先生。幼稚園教育研究所は、幼

幼稚園教育の上に大いに働いてもらわねばなりません、四日市はうまく幼稚園の研究をやっています。その意味で、この立場からごらんになった方向、問題点を伺いたいところです。

△宮内 孝 講師▽

国立大学の幼稚園の組織のまとめ役として指名されました。まず現在の研究の組織についてみましょう。

国立の幼稚園は各県に一つずつ、東京都に二つしかありませんが、全国にちらばっています。そして研究が、その幼稚園なり、所属している大学を中心にして行なわれているのですが、そのうちには、いくつかの種類があります。

(1) 大学単位のもの(県)

a、付属幼稚園を中心としたもの……付属幼稚園の教官を中心として、学部教官、小学校、公私立幼稚園や保育所の一部または全部を含む。

b、学部教官を中心としたもの……大学学部教官を中心として、付属幼稚園の教官や一般の保育者を含むもの(例 広島大学)。

(2) 地区単位のもの……全国の付属学校が九つの地区連盟に分かれて、各地区で、年一〜二回の総会をかねてやる。付属幼稚園もそこに参加する(付小を加える場合もある)。

(3) 全国単位のもの……七年前から、文部省教職員養成課の招待により、全付連幼稚園部会との共同により行なわれているもの。

(付幼を置く大学の教官と付幼教官の合同)

次に、以上にあげた(1)、(2)、(3)の組織の活動をみますと(1)による

ものを中心であり、また活発に行なわれています。その成果は、公開研究会、研究発表会、パンフレットその他の出版物により、広く公開されています。

(2) による活動は未だ未熟です。一つのテーマによる継続的共同研究をしている関東地方を例にとりましても、東京・千葉・山梨・群馬・埼玉・栃木というように、バラバラでまとまっています。殆んどが当番校の発表に終る。即ち、当番になった一つの幼稚園だけは必ず参加しているが、それがすめば参加しない、といった現状です。地区活動というものは、なかなかうまくいかないのですが、この頃になって、ようやくそれぞれの幼稚園の個人プレーではなくて、集団の力でやっというところの気運がみられてきました。

それは、(3)を見れば、すっきりと示されてくるわけがあります。昭和二十九年頃から、毎年一回、四日間にわたり大学教官、付属幼稚園教官が集って、共通のテーマで話し合い、次第に系統研究という形に入ります。教員養成という立場から半継続的研究協議を行ない、教育課程、教育実習のやり方、保育内容の講義系列、各領域の研究、幼児の研究などをやったりします。最近の傾向は、文部省の指導書を作るにはどうしたらよいか、次に指導書ができると、その批判を行なって、その現場での用い方を研究しはじめました。なお、継続研究としては、全国の付属幼稚園の園児の運動能力を検査し、表を作成し発表するまでになっていきます。

さて、私は要項に問題点を三つ出しました。即ち、

(1) 教員養成大学(学部)の性格

(2) 付属幼稚園の性格

(3) 公私立幼稚園や保育所との関係

であります。まとめて言うならば、現在の国立大学の付属幼稚園の問題ということに集結されます。なぜなら、教員養成大学は、義務教育の教員を養成することをたてまえとしているので、付属幼稚園というものは、他の付属小・中学校に比し、存在価値が低いのです。教員数も、一学級に一人という驚くべき貧弱な状態におかれておりますし、教材研究費も殆んど三十%の値上げになって一人一万円、旅費も少ないという現状です。

付属の教官は、大学教官と一体となって研究する使命をもつています(国立大学設置法)。現在の新しい付属幼稚園が、実験実習学校としての性格をうち出さねばならないのに、大学教官の関心は、付属小・中学校の方へ行ってしまうのです。また、付属幼稚園の規模が小さく、教官定員も少なく、費用も少なく、日々の教育に追われ、研究の方まで手がまわらないということになりますので、今後の付属幼稚園が、どういう姿でいくかは、大きな問題であると思えます。

また、全国の公私立の幼稚園或いは保育所は、それをどういうふう結びつけていくか、法令的には相当な結びつきがあるのですけれど、現実には、大きな問題として残されている、と考えております。

△安藤寿美江講師▽

私は東京都の、主として公立幼稚園の世話をしていますので、その内容・制度について意見を申し上げたいと思います。

東京にはたくさん幼稚園がありますが、公立はわずかです。昨年まで六八園、今年度一園増して七九園、それに比し私立は八〇〇園、世田谷区を例にとってみても、八〇園もあります。また、公立の七九園は、二三区のうちでも、一〇の区に集中しています。私は、主にこの公立幼稚園の世話をしています。

私の所属している都の教育庁指導部には、主なものが二つあります。一つは、研究協力園の設定、もう一つは、研究協議会の設定です。

(1) 研究協力園は、都の幼稚園教育で当面する問題のうち、緊急を要するものについて、現場の実際活動を通して、指導部と結びつき研究します。そしてこれを公表し、都の幼稚園教育の発展向上に役立つようにするための制度です。

都の選定は、年間一つです。

四年前までは、具体的テーマをどこかの園にきめていたのです。が、現在は、当面するいくつかの問題を指導部できめて、各区を通して各幼稚園に流し、研究を希望する園を募り、その中から一園を選定して、そこに願って年間研究をすることになっています。もし、希望園がない場合は、今までに実施していない地区の中で適当な園を指定します。

そして、指導部の担当者をきめ、これを運営の責任者とする、つまり都が責任をもってこれにあたります。

そして講師をお願いし、年間計画をたてて研究をすすめます。この場合、現場にそくしながら、というたてまえをとります。また、テーマに関しては選択の中をもたせ、狭く区切ってしまうよう

最近の研究主題と講師及び協力園

年 度	研 究 主 題	指 導 講 師	研 究 協 力 園
昭和31	幼稚園教育過程の研究	お茶の水女子大学 津 守 真	新宿区・四谷幼
31	地域に即した「自然」の取扱い	東京学芸大学 湯本 信夫	荒川区・南千住第二幼
32	劇あそびの指導	東京学芸大学 角 尾 稔	台東区・富士幼
33	体育的遊具の研究	東京教育大学 松田 岩男	千代田区・淡路幼
34	グループ活動の発達とその指導	お茶の水女子大学 津 守 真	千代田区・番町幼
35	造形活動の構成をどのようにしたらよいか	東京学芸大学 三浦 義雄	中央区・京橋昭和幼
36	地域に即した実語指導	東京学芸大学 角 尾 稔	文京区・柳町幼

最近の研究協議主題と講師

年 度	研 究 協 議 主 題	講 師
昭和 31	音楽リズムの実際的研究	東京学芸大付小 渡 辺 茂
31	視聴覚教材の利用とその効果	文 部 省 青 木 章
31	教育過程作成の基本的問題	東京学芸大学 東 倉 沢 剛
32	幼児の栄養とおべんとう	栄 養 短 大 米 上 野 剛
32	指導のための調査とその処理	東京学芸大学 辰 田 見 敏
33	幼児の道徳性の涵養について	東京学芸大学 東 品 川 不 二
33	幼児の科学的な啓培について	東京学芸大学 東 湯 本 信
34	音楽リズムの基礎的指導	聖心女子大学 聖 心 子 谷 光
34	指導計画に即した環境構成	東京学芸大学 東 角 尾 稔
35	放送の利用計画をどのようにたてるか	日本放送協会 日 本 豊 田 典
35	体育的あそびの指導	東京教育大付小 東 高 田 衛

にしています。

なお諸経費のうち、講師謝金、研究物印刷費、研究費は都で負担いたします。

(2) 研究協議会

研究協議会は、やはり当面する問題の中でも急いで研究する方がよい問題の中から、都が指定し、講師を呼び、都の先生に相談し、内容を討議し、現場に役立ちながら、東京都の幼稚園の内容を向上させようとするものです。

開催回数は年二回、各区に順番に会場園を依頼し、その司会、進行などの運営は、会場区内の現場の人達に協力願います。

時には主題に即した会場園の公開保育も加えて、日頃の現場の問題と結びつけて研究協議したりします。

経費は講師謝金・会場人夫賃を都で負担しております。

(3) その他

その他には第一に文部省のワークショップがあります(幼稚園教育指導者講座参加事前、事後研究会)。国・公・私立幼稚園の合同研究で、事前の研究をいたします。

(公立幼稚園からの参加者(十名前後)については、旅費、宿泊費の実費を都で負担)

第二には、都立教育研究所研修部の主催するものがあります。

本年度は、「社会性」の問題と「ラジオ・テレビジョン」の問題の二つをテーマに選び、ある期間、限られた人数で継続研究をいたしております。その成果は、発表してもらおうようになっています。

第三は、東京都公立幼稚園教育研究会(都幼教)の主催するもの

年二回、公開保育をし、一回の研究発表会、数回の研修会をして
 いましたが、今年、公開保育をグループ研究（六領域、視聴覚教
 育・評価の八部門）に変更したとてあります。全会員が希望
 です。

東京都立教育研究所研修部の主催するもの

（昭和36年度幼稚園課程研修会実施概要）

- (1) 社会性的研究
 ○対象 公立幼稚園教諭（希望者）30名
 ○内容 幼児の社会性を把握するための諸技術（調査法）を究明すると共に、社会性を伸ばすための指導方法を研究する。
 ・社会性の意味
 ・社会性を把握するための諸技術と実習 } 結果の分析考察
 ・社会性調査の実習
 ・具体的なケースをとらえて、社会性を伸ばすための指導方法の研究
 ○時期 5月中旬より10月中旬までのうち18回
 ○会場 中央区内に設定する
 ○備考 昨年度の参加者が受講してもよい
- (2) ラジオ・テレビジョンの研究
 ○対象 公立幼稚園教諭（視聴覚教育担当者）
 ○内容 保育の中にラジオ・テレビジョンを利用するための諸問題について研究する。
 ・ラジオ・テレビジョンの機能や役割
 ・教育過程との関連——番組選択の方法・位置づけ方など
 ・施設・視聴環境の設定
 ・視聴指導のあり方
 ○時期 6月中旬より8月上旬までのうち7回
 ○会場 都立研究所内
 ○備考 放送を利用した保育の実際も参観する

○ 地域の自主的研究（35年度または36年度）

- 千代田区 絵本の研究（幼児の反応について）
 中央区 自然の資料研究（動植物、遊具、機械）
 文京区 カウンセリング（幼児の教育相談）
 台東区 指導要録記入のための研究
 視聴覚教育
 リズム楽器の指導 } の三つのグループに分かれて研究
 幼児の性格分析
 新宿区 各園の問題をとらえて（環境・集団・言語・道徳）
 港区 地域の自然的環境調査
 渋谷区 指導形態とその指導
 江戸川区 表現活動の指導
 足立区 言語指導・清潔についての生活指導
 荒川区 視聴覚教育（テレビ）に関する実態調査
 （備考）区により、区教育研究会の幼稚園部、区研究所研究員、または区の研究指定園などの研究制度がある。

○ 東京都公立各幼稚園の保育の重点

（昭和36年度届出教育課程より）

(1) 領域に対する重点

領域	健康	社会	自然	言語	音楽リズム	絵画製作
園数	36	27	13	8	6	2

(2) その他の面の重点

類別	指導方法	指導計画	環境構成	表現力	科学心	教聴視 育覚	創造性	連家庭との 絡	生活指導	個性伸長	関連	道徳
園数	9	7	7	6	5	5	4	3	2	2	2	1

（備考）(1),(2)についてはこの二通りの表現があるので便宜上分けたわけである。

のグループに参加し、研究部員がそれぞれのグループの中心となっ
 て研究を進める体制をとるとのことです。
 これが更に分かれて、地区の自主的研究もおこなわれています。
 その区の教育界の、幼稚園部が、二、三のテーマをあげ、研究する

ものです。三十五年度、または三十六年度のテーマの例は前頁下段に示した通りです。

その他、東京都放送教育研究会（東・放・研）があつて、これは公私立の保育所と幼稚園が合同で研究を行なっています。

東京では、以上のような研究活動がおこなわれておりますが、それについての問題は、あくまでも自主的に研究していただきたいのです。こういう意図から、テーマもなるべくたくさんとりあげて、その一つを実状に則して決定していただきたいと思つています。

研究費は、幼稚園のみならず、小・中・高校も含まれるので、一校あるいは一園には、些細なものにしかありません。数十という教育研究校も、必要な施設に乏しいという現状です。

また、さきあげた三つの教育機関の研究テーマが重複したりしては思わしくありませんので、この点について、今後、もっとスムーズに、もっと突っこんだ三者の体制が必要だと思ひます。この二、三年は、前年度の反省と新年度のテーマを、代表者三名が集つてきめ、年頭のうちに、そういうことのないように話し合つていきます。今後、お互いに助けあえるという体制が必要なることを痛感していただきます。

現場の人たちには、他方面から研究の機会が与えられているのですが、それらを推進させるよう、お願いしたいと思います。

△友松あきみち講師▽

私は私立幼稚園の話をしなればなりません、私立幼稚園とい

つても広く、個々の研究もしていますけれど、私立幼稚園の特色としては、総合団体としての日本の幼稚園教育が、数多くにわたります。うであるか、ということの研究してゆきたいと思ひます。

私が申しますことは、六五頁をみればおわかりと思ひますが、多少問題点を提起しておいた方がよいと思ひます。

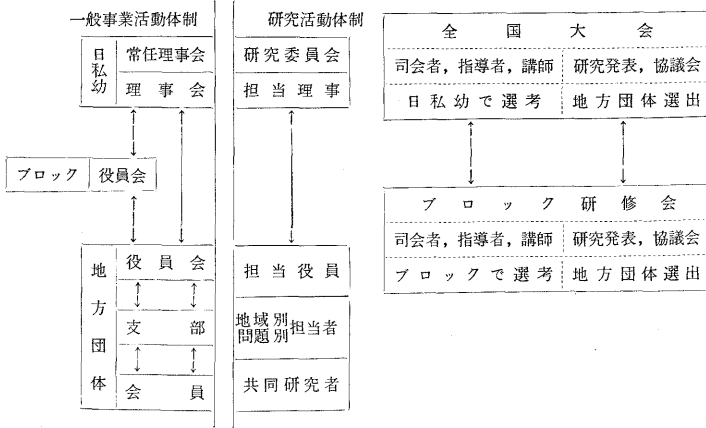
この学会で、特に国・公・私立の互の研修内容を話し合う機会を作つて下さつたことに感謝しております。私立幼稚園研究組織は、ようやくこの頃熟してきたと思ひます。そして、いろいろな問題がそこにあります。しかし、例えば、就学前一年の問題についても、とりあげるべき問題がたくさんあるのに、これが一般社会の保育、教育問題としてとりあげることは少ないと思ひます。幼児学級あるいは幼稚園の問題であります。日教組などには、公立幼稚園化というよりも、就学前一年の機会均等を希望している方が多いわけです。しかし、小さな集会で話したり、雑誌に投稿したりするだけだったのです。ですから、私はそれにそつてお話しします。

「保育研究の現状と問題点」というテーマですが、私はこのことばにこだわっています。領域別特殊児童、経営の問題、保育技術の問題も制度論の問題もあります。こういうものは、保育研究ということばの中に入らざりましょうか。小教育の特殊性とは何か、日本の幼児教育が、どのように発達していくかに関心をもつていきます。

そういった意味で、私は、各方面の先生方の御意見もうかがひ、自分の意見も持っています。が、これも制度論につながります。

次に、保育研究の現状の問題ですが、組織の問題、経済的裏づけと研究の内容の問題など考えますと、私は、私立幼稚園の研究が、

私立幼稚園の研究組織と研修概要



1. 全国組織 (図解参照)

- (1) 日私幼の常任理事会の中に研究委員会がおかれており、全国的な視野のもとに研修を進めていく原動力となっている。対外的な起案や接衝もここで行なわれる。
 - (2) 昨年から各都道府県の研究代表者会議を年5回もっている。この会議の目的は各地域における研究調査の情報を交換したり意見を調整して、一貫した全国活動を行ない、遅れている地方の啓発につとめている。全国大会やブロック別研修会の研究主題作成等の基盤でもある。
- ### 2. 教育研究全国大会
- (1) この大会は各都道府県において当面している保育の問題点を中央に集め、意見発表者を中心に討議を進めるものであるが、中央から問題が提示されて方向づけの行なわれる場合もある。
 - (2) 昭和29年より開かれており、第8回大会が来る7月26、27日に神戸で開催される。開催費約200万円。
- ### 3. ブロック別研修会
- 全国を9ブロック(北海道、東北、関東、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州)にわけて積上げ方式の研修を進めており、全国大会の基盤をなすものであるが、地域における問題点がこの研修によってクローズアップされる。開催費約400万円。
- ### 指導者研修会・園長研究協議会
- 園長の研修を目的として開かれるもので、前者は年2回、開催費約300万円。
- ### 5. 日私幼講師団
- 日私幼稚園に理解のある学者・専門家13氏を現在日私幼の講師団に依頼しているが、近く拡大される予定。
- ### 6. 特殊研修・国内研修・国外研修
- (1) 特殊研修は、各園における個人研究・共同研究を奨励するため助成。
 - (2) 国内研修は、希望者中より選考して国内大学、研究機関にての研修を助成。
 - (3) 国外研修は、昭和34年より毎年1名が派遣されており、海外事情の蒐集につとめている。本年度は2名の予定。
- ### 7. 各都道府県研究活動
- 例えば東私幼の場合など研究班を9班にわけ各園の教師が自由に参加して成果をあげているが、東京ばかりでなく、各地域の自主的な研究活動は最近とみに活発になってきた。(東私幼の研修費70万円)
- ### 8. 出版・編集活動・その他
- (1) 研究日録・集録等については日私幼の機関誌「私幼時報」の特集にまとめていく方針で、昭和34、35年度全国大会の分科会報告と本年度大会研究要旨は既に刊行されている。
 - (2) 海外保育資料の紹介については研究委員会で準備が進められている。
 - (3) 私幼の教育と運営を高めるために「幼稚園参考書」が近く刊行される。(週刊誌版で約400頁)
 - (4) 文部省の領域別指導書の作成委員に依頼を受けたので、日私幼はその都度数名を選出している。
- ### 9. 幼稚園教育映画の作成
- 私幼教育の振興と内容の充実をはかるために「教育映画」を作成中で、その第1巻は神戸の全国大会で発表される。製作担当は岩波映画。(製作費300万円)
- ### 10. 神戸大会研究主題
- 分科別主題
1. 私幼教育の特色とは何か。
 2. 教育計画の作り方といかしか。
 3. 幼稚園幼児指導要録等を通じてみた評価の問題点。
 4. 幼児の健康を増進するための生活指導のあり方。
 5. 幼児の社会性をたかめるにはどのようにしたらよいか。
 6. 「自然」の指導のあり方をどう考えたらよいか。
 7. 幼児の言語指導をするためにどのような教育計画を立てたらよいか。
 8. 音楽リズム指導の再考。
 9. 発達段階に即応した造形活動の指導計画はどうあるべきか。
 10. 幼稚園における視覚教育はいかにあるべきか。
 11. 経営管理の評価について。
 12. 私幼における施設設備の創意工夫について。

ようやくこの二、三年熟してきたと思います。

最近、全国私立幼稚園の団体の顕著な問題として、研究組織から代表を送り、全国的問題として考えていこうとするものがあります。ブロック別研修会はそのために全国の先生が集って話し合うものです。

経済的面は、うまくいっています。しかし、しかるべき方が相談にのつてこない、という点があります。ある県は非常に熱心で、ある県は、何をしているかわからない、したがって研究意欲のない県はおくれてしまう、また、費用が、研究の熱心な県にまわってしまうという傾向がともすればおこります。しかし最近では、意欲のなかった県も、意欲をもち出してきました。

東京ばかりでなく、静岡や愛知でもよい研究をなさっています。「社会性の研究」は、昨年東海地区で行なわれましたし、栃木県ではいろいろな「領域の研究」が共同研究としてなされています。そして、資料の交換をめざし、どの県にもまわるように記録は印刷して渡そうと言っております。

現状には、いろいろな問題がありますが、問題点を大きく三つに分けてみました。研究法における問題点ということです。

今日、研究意欲が高まっていますが、各々の幼稚園が勉強していくには、適当な指導者が必要であります。

私幼の立場としては、一、文部省は私立幼稚園の独自性をのばすために努力してほしい。また、先生達の養成をしてほしいと思えます。

それから、「社会のなかでの保育の問題」もあります。それは、

宮内先生にお願いしましょう。私立幼稚園の中で先生を育てるのは、手がかかるものです。どうか幼稚園の現場に、立派な先生を送りこんでもらいたい。

第二として、大会などをする人数が多い、従って十分な討議が出来ません。もう少し人数をしばって、みっちり研修し、研修したことが保育の上にあらわれてくるようであればならない。

三、リーダーとしての人材が少ないこと。

学会の先生方の御指導を仰ぎ、私立幼稚園の向上をはかるようにしなければならぬ。

今申し上げた私立幼稚園の問題は、公立の問題につながるものがあります。

△秋 田 美 子 講師▽

まず私は「研究」というようなことが、私たちの職場にあつては非常に苦しい、困難なことであると、申し上げたいのです。言いかえれば研究のためには、条件の悪い職場なのであります。そういう中で今の今までの経移を述べて、公立保育所が、研究にどのように参加してきたかを申し上げます。

公立保育所は、全国的組織をもっておりません。ただ、全国社会福祉協議会（公私立をとわず、全国的なもの。昭和二十七年創立）があります。これは研究に対しては大きなウエイトを持っていないで、むしろ保育運動ということに力を入れてきました。保育研究的なものは、千人もの大勢が集ってやったために、お祭りのなものになってしまつて、系統的研究に盛りあがりがありませんでした。

三年ほど前から、全国共通テーマを出しては、末端の小さな組織から積みあげたものを話し合うようになりました。一昨年は、職員の資質の向上ということでした。ちょうどその頃秋山ちえ子氏が「保母は女中ではない」という評論を書き、これが保育界にセンセーションをまきおこした年でした。

昨年は、昭和24年につくられた最低基準の中で現状にあわぬものと考えてほしいという意見が高まり、これは現在、厚生省で審議中です。

今年、保母の労務管理ということがテーマになりました。

戦後、天職使命的な色彩もあり勤めてきたが、最近、保母は、あまりにも劣悪な条件で働いている、これは保育所自体にとってもよくない、というわけで、この二、三年来、保母それぞれ自身についてが研究テーマとなり、保育内容の研究と、自分の労働条件・処分の問題が別のものではないという自覚に目ざめてきました。総合活動を通じ、自分自身を見つめる機会に恵まれたわけです。また実状をいろいろの研究関係者に訴えるために、保育園の実体白書作成は、どうしてもやらねばならぬ前提の問題であり、それをやったことは、高く評価されてよいのではないかと思っております。

過去のわれわれの研究態度は、前進してきたとも思います。

数年前に、東京都保育研究会で「自分たちの研究団体はどうなっているか」について、その研究態度や意欲の自己批判をしたことがありました。これを発表した時には、脱皮する心がまえを互いにもってやったのですが、これが今日でもそのまま持ちこまれていることに気づくのです。ふり出しにもどって思いきって改革をせずに、

惰性に流れたし、また、新しい会員と古い会員のギャップの増大などもあって、研究態度が渋ってきたのではないのでしょうか。

私達は公立の保育園にいますので、経済的安定があり、また、資格をもっている人だけなので、能力の平均化があります。がしかし、長時間勤務は、どうしても他の学校の先生にくらべて研究のための時間や体力をなくしてしまいがちです。古い者が苦勞して築いたものを、若い人達が前進させる、というような意欲はあまりありません。では、どうすればよいのか、ということが、研究会の一番大きな悩みになっております。現在のわれわれの段階は、これが強まった時期にあるのではないか、と思われれます。自分の幸せを守りながら子ども幸せということを、どんな具合に守っていくか、皆さんのご批判を仰ぎたいところでございます。

△宮 下 俊 彦 講師▽

「全保連」ということばを聞いて、なつかしく感じました。五回目の大会の時には幼稚園と保育園が共同で話し合うことが出来ましたが、それから十年を経た今、その時のやり方が正しかったかどうかいろいろ考えさせられる点があります。

社会福祉協議会の組織は、ピラミッド型の形ができました。私の町には保母会というのがあり、それが神奈川県研究協議会、更に関東甲信越研究協議会、全国保育所関係者代表協議会、保育内容全国研究集会、更に全国社会福祉大会となっています。しかし、このピラミッドは、基盤にいくほど弱く、見せかけのピラミッドにすぎません。

研究所の関係した最近の研究題目一覧表

35 年 度 研 究			
研 究 題 目	研 究 園 名	発 表 方 法	報 告 書 名
保育分析の研究	内 部 幼 神 前 幼	文 書 発 表	保育分析の研究 ——音楽リズム・絵画製作を中心として—— (四日市々教育研究所発行 研究調査報告第59集)
幼児期における基本的な学習態度をつくるにはどうすればよいか	橋 北 幼	橋北幼における研究発表会において 口頭・文書発表	幼児期における基本的な学習態度について ——実践活動を中心として—— (橋北幼稚園研究報告)
同 上	全 園 参 加	市内幼稚園協会研究発表会において 口頭発表	
幼児の社会性をのばすのに必要な施設・設備の研究(第6報告) ——玩具による遊びについての基礎調査を中心として——	納 屋 幼	全国幼稚園施設研究会において 口頭・文書発表	幼稚園施設研究(第8号) (全国幼稚園施設協議会発行)
幼児の遊びにおける科学的認識過程の研究	中 部 幼	保育学会第14回大会において発表	
幼児の社会性を中心とした成熟段階の研究	海 蔵 幼		

この間にもう一つ変わったことと言えば、研究テーマをきめる場合でしょう。以前はそれぞれの地区のリーダーがきめていたのですが、今は完全ではないまでも、保母に主体が移りました。これは保母会の前進を示すものであると言えます。社会福祉協議会は、統制連絡機関的色彩が強いので、ここから及ぶ運動や研究に対していろいろ抵抗が出ました。自分達の研究の主体性を確保しようとする動きは、全国私立保育園連盟をつくりました。私立幼稚園の経営者を中心に予算獲得運動から、研究へ移り変ってきました。このことは社会組織の動脈硬化を救っておりません。例えば、働く婦人達の連携とともに、固定された保育から流動する保育についての研究の改革には敬意を表しなければならぬと思います。これは一応ピラミッド型になっていますが、基盤は弱いものです。一つひとつの保母の研究と、具体的に結びついていかなない点があり、このことが不満となっている組織が、保母の要求にマッチしない点が多いからだと思えます。

私どもが、例えば昨年六カ月をかけて、人間像という問題を研究してきました。

保母が、どのような子どもを育てることを目標

四日市市立教育研究所における研究および

研究区分	34 年 度 研 究			
	研 究 題 目	研 究 園 名	発 表 方 法	報 告 書 名
1 嘱託所員研究	幼児の遊びの全体事態的分析	海蔵幼稚園 川島北幼稚園 橋屋納	研究所研究報告会における口頭発表および文書発表	幼稚園における幼児の遊びの全体事態的分析—集団機能および役割の分化を中心として— (四日市市教育研究所発行研究調査報告57集)
2 研究所協力園	幼稚園における生活指導の研究 —親のこどもに対する意識調査を中心として—	四日市幼	研究所研究報告会において口頭発表	
3 県幼稚園協会指定研究	幼稚園における生活指導はどのようにすればよいか	神前幼	神前幼における研究発表会において	幼稚園における生活指導はどのようにすればよいか—実践活動を中心として— (神前幼稚園研究報告)
4 市幼稚園協会共同研究	同上	全園参加	市内幼稚園協会の研究発表会において口頭発表	
5 全国幼稚園施設協議会参加研究	幼児の社会性をのばすのに必要な施設・設備の研究(第5報告) —移動遊具の使用価値を中心として(その2)—	納屋幼	全国幼稚園施設研究会において口頭・文書発表	幼稚園施設研究(第7号) (全国幼稚園施設協議会発行)
6 その他研究所の関与した各園の自主的研究 —主要なもののみ—				

としているか、調査しましたが、答が出てきません。具体的に、自分の職場の中の悩みが、せきをきったように出てくるのです。労働条件の悪い中で、朝早くから夜おそくまで子どもを預けるのは親が間違っているのではないかと、というふうな考えまであるくらいです。母親と保育が背中あわせになっているのではないかとさえ思われます。

こういうことを考えますと結局は、保育の待遇改善、そして保育にも勉強できる時間を与えねばならぬ、ということの解決になってくるのです。

私は、友松先生の、「一般的な社会の中で保育問題をとりあげねばならぬ」ということに賛成します。

△神沢良 輔講師▽

研究所と現場との密接な研究はむずかしいと思われまます。

同じように研究所と申ししても、その内容は国・県・市・町・村などにより異なり、また性格は、所員の組織にもよって異なっています。例えば、教育の専門家で組織している場合と、現場の先生がたに来ていただいている場合で異なるわけですが、研究の自由と科学的方法でなされていくべきです。

さて、四日市の研究を続けていくために、悩ん

だ点を申しましょう。

前頁の1、2について。これは現場の先生と私達の問題であり、現場から問題意識をつのり、そのテーマについて所員を募集しても、はねかえりが来ないので。したがって、私が代行してテーマをかざるを得ませんでした。同じ表の3は県の幼稚園研究、4は市の幼稚園研究です。私達は3、4、5の組織的研究に参加していません。

組織はごらんのようにすっきりしていますが、中味はむずかしい。研究方法について、現場の先生方は、その話はずかしの役にたたぬと言います。研究の見方自身(原理、教師の能力など)に問題があるのです。研究所の言うことはむずかしいと言います。

実施記録には、いいかげんなものもありますし、また、科学的見方もできない、やることもないと言います。

私どもは、どうしても保育内容が中心となつてしまっています。教育行政の問題などは、現場から起つてこないのはあたりまえで仕方ありません。指導、養成の問題は、単にテーマの問題だけであり、現場としてはむずかしいものであります。

研究所は、現場の先生の意見をつねに受けとめているという点で、自負もつています。教師の問題意識をどうするか、研究態度がどうつくられているのかは、研究活動上大きな問題になるのではないかと私は思います。

司会 以上、各々の先生方から、一応、お話をうかがったのですが、ご発言いただいた先生方の中で、さらに話し合いたいという

ことがあれば、補充していただきたい。宮内先生から順々に……

宮内 教員養成のことで、友松先生にお聞きしたい。幼稚園の社会的地位の問題に関するのですが、すぐ役立つ教師を出していくのか、問題をもつてこれからやろう、という教師を出すのか、よくわかりません。例えば、音楽にしても、どういう年齢の子どもにどんな歌を歌わせたらいのか、また、ピアノでは、バイエルやソナチネをしつかりやらせるのか、それとも、ドングリコロコをやってらよいか、などの問題があります。どういう観点から話されたのですか？

友松 どんぐりころころも結構ですが、私が言うのは、幼児も大切であるが、教師は幼児と毎日接しなごらいくのであるから、人間としてしつかりした人を養つてほしいということです。保育所に入つてからいきつまり、改めて話し合うというのではなく、入つてからすぐ、どうあるべきかを考える人、安直なオルガニックな人間でない人間、そういう先生を養成していただきたいと思つています。

宮内 それは理想ですが、抽象的に、人間形成、人間形成といつても、むずかしいものです。役立たないと言われても、二、三年経つてから、とてもいい、と言われたりすることもあります。来年は、養成所に入る者が定員に満たぬのではないかと、言われておりますが、こういうところにも問題があります。

司会 もっと違う表現をすれば、保育者は高い教養をもつた、人間性豊かな人間でなくてはならないということでしょう。二人の意見は違つているようで、根本的にはつながつておりますね。

安藤 ききほど、都の指導部の主催する研究制度について話しまし

たので、今後の問題として、それにプラスされるような制度をご紹介します。都の公立小・中学校の先生の間に、各教科について区内の小学校の中から、教育の推進力となるような先生が選出されます。これは都内二十三区から出てきます。「教育研究員制度」と言い、夏休みに静かな山の中に合宿して成果をまとめ、研究発表をしています。これは、幼稚園にも広げてほしいので、来年までには、是非このような制度をすすめていきたいと思えます。

第二に、「内地留学制度」というものがあり、現場をはなれ、大学などの師事したい先生について、みっちり研究するという制度です。これも幼稚園にも広げてほしいものです。

友松 宮内先生の意見について。さっき言ったような保育者がどんな出てきてほしい。というのは、皆さんの問題として、そういう保育者を望んでいます。今日の日本の保育行政を肯定する人ばかりが出てくるのでは発展がありません。どこかに疑問がないか、という具合に考えていく人が出てきてほしい。教育は、今日が完全ではない、というような人間をつくってほしい(拍手)。大学でも、これから育つ教師に対して、海外事情を研究して材料を提供するのは、大学教師の問題ではないか。

司会 皆さんの中で、話してもらいたいと思えます。

A(大阪) このシンポジウムを拝聴して感じたことを申し上げます。

保育内容の現状と申ししても、二通りあると思えます。保育研究の体制の現状と、保育研究の方法の現状と。今日のお話は、後者が比較的小さいように思いました。体制が中心になったことは、教育条件が整わぬためか、または、先生方がご遠慮なさっているの

か、或いは、未だ手をつけた早々であるからかをどなたからでもよいからご返事いただきたい。

宮下 私どもの方では、体制の問題と想っています。方法は、さいの河原で石を積むような状態で、お恥ずかしい次第です。

秋田 私達は、自分の疑問を考えていくのを研究と考えています。基礎資料が、研究というものに結びついていないのです。

司会 終戦後の保育問題は、保育所と幼稚園に分かれていて、各職

域団体として出発し、わかれたり、合わされたりして、今、ようやく進みつつあると思われまます。研究は、体制、方法、両方を含めて考えていかねばならぬように思えます。今日、体制が問題になるのは、体制が十分できあがっていないからではないかと思われまます。研究の方法、内容の点までいかなかったのは残念ですが、お互いの学説の中で、今後進めていきたいものと思えます。

友松 私は、団体の代表ということでお話ししましたが、教育制度論、指導内容の問題(私立幼稚園の立場として)、自分たちで教育指導論をつくっていくとする動きは私立の中ではありました。

B(埼玉) 保母養成に関係している者として、保育研究をどう促進していくか、という秋田先生の現状分析に敬服いたします。研究者自体の態度に問題があるのではないかと思えます。

幼稚園教諭志望の学生と、保母志望の学生を比較すると、そこに一つの影が出てまいります。第一は、勤務体制が悪いこと。今日の私立保育所の待遇は、見るにたえぬものがあります。一月当り八〇〇〇〜九〇〇〇円、私は何よりも保育所幼稚園の待遇を改善しなければ、勉強意欲も減退すると思えます。第二に、教養の問題です。

カリキュラムによれば、保母に一般教養の時間は殆んどありません。厚生省がきめたものでたくさんだと言われています。時間は余っているのに、専門だけやらせます。したがって、まず、質のよいものを集めてほしいと思います。しかし、これらの悪条件の中で、何ができようか、という点、ご意見をうかがいたい。

C (東京) 労働条件の問題が出ていますが、それは皆さんにお任せいたします。私の、本日の影響を申し上げます。というのは、質のよい・悪いはあるが、現に研究が進められている、ということ。日本の研究は、世界でも見るに足るべきものが出ています。ただ、厚さが少し欠けているのだと思います。あちらこちらに、〇〇連盟、××会というのがありますが、私は今までその名前を知りませんでした。そこでやった研究を、発表してほしいと思います。またその研究は、雑誌などに批評も加えてどんどん載せてもらいたい。

皆さんのお話は、どちらかと言えばちぐはぐでした。これは、何にでも問題がひっかかっている、ということの証拠だと思います。

教員養成が最も大切である、という友松氏のご意見に、ある点では賛成いたします。労働力が減少しつつある現在、免許状所有者をつくるのではなく、保育者をつくらねばならないと思います。

もう一つ、うっかりすると日本人は、教育過剰になりやすい。人間像を追求するのもよいが、そのために、どういう教育をするか、という問題が追求されていません。日本の研究が、外国に劣らぬほど活発である、という今日の先生方のお話、また、たくさんの組織、そしてその組織は広い。また先生がたは熱心である、など、教育体制は完備しているが、現場の子どもたちの処理はどうなっているか。現場の先生の数は少ない、そして待遇が悪い、という中において、あらゆる研究に出していくのであります。子どもたちに対する研究というものは、ないものでしょうか。

司会 きょうの皆さんのご意見をまとめると
(1)保育者の改善(待遇、質ともに) (2)教育体制の整備(お互の研究を交換してむだのない体制を整えることも必要ではないか) という点に集約されると思います。これで終りにさせていただきます。

幼児の教育 第六十巻第八号

八月号 © 定価 六十円

昭和三十六年七月二十五日印刷
昭和三十六年八月 一日発行

東京都文京区大塚町三五
お茶の水女子大学付属幼稚園内
編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五
お茶の水女子大学付属幼稚園内
発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五
印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所 株式会社フレイベル館
振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレイベル館にお願いいたします。